

1B-5

コンピュータ導入用CAIシステム

(1) コンピュータ導入プロセスCAIシステムの開発

○川島 真人

三好 隆生

協同システム開発株式会社

富士通エフ・アイ・ピー株式会社

1. はじめに

平成元年度から2年間に渡り、協同システム開発株式会社と富士通エフ・アイ・ピー株式会社と共同で、通産省、情報処理振興事業協会(IPA)より委託された「中小企業情報化指導支援CAIシステム研究開発計画」の内の「コンピュータ導入プロセスCAIシステム」を開発している。

当CAIシステムは、コンピュータを導入したいが、具体的な方法が分からない等の理由により、情報化を諦めている中小企業の方に、コンピュータ導入の必要性、導入方法、および導入時の留意点を中心に身近な例をもとに解説し、中小企業の情報化を促進する目的で作成されている。

2. システムの概要

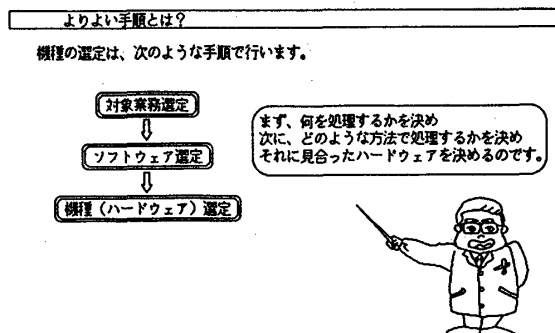
このシステムは、中小企業地域情報センターの情報化指導員、中小企業の経営者、および導入担当者を主な利用対象者としている。

教材の章構成の一覧表を以下に示す。

章番号	章タイトル
1	中小企業にとってOA化とは何か
2	コンピュータ導入成功のための準備
3	コンピュータ導入のための社内準備
4	導入決定に際しての検討事項
5	導入決定に際しての手続き方法
6	コンピュータの導入から稼働まで
7	ソフトウェア開発の方法
8	システムの運用・評価・拡張
9	通信ネットワークの利用
10	コンピュータセキュリティと知的財産権
11	索引キーワード

また個人差はあるが、各章とも学習時間は1時間で、全体で10時間程度となる。

画面例を以下に示す。



また、教材は富士通側のFMシリーズ用(FM-16β、FMR-50、FMR-60(但し16ドット表示カード付))と日本電気側のPC9800シリーズ用とがある。以降特に断らない限り、FMシリーズ用について述べる。

3. システムの機能と特長

3.1 理解しやすいストーリー展開

日常生活の中で、ごく身近な例を多く取り入れている為、比較的容易に理解できる。また理解しにくい語句は、索引キーワードとして用語の説明をしている。

3.2 アニメーションの活用

効果的な所では、アニメーションにより動きを入れ、学習者の理解の手助けをしている。

3.3 簡易な操作性

システムの起動は、自動で行われる。また、通常の操作もP.Fキーとテンキーを中心とした簡易オペレーション方式である。

CAI System for Introduction of Computer System
 Mahito Kawashima, Joint System Development Corp.
 Takao Miyoshi, Fujitsu FACOM Information Processing Corp.

3.4 実行環境

当該コースウェアの他に、MS-DOS V 3.1以上が必要となる。

3.5 動作モード

教材本体部分は、「説明」と「クイズ」の繰り返しを主体とした所謂、チュートリアル型のCAIシステムである。クイズは説明の確認を主目的とし、量的には全体の1割程度とし、説明内容の充実に主眼をおいた。

3.6 モニタ調査

開発当初から、全国の主要な中小企業地域情報センターを訪問し、平成2年には、元年度開発分を実際に使用してもらい、意見・要望を提出して頂いた。そしてこれらを教材に活かし、改良・改善を行っている。

3.7 教材構成

前頁の章構成を、もう一度見て頂きたい。第1章は当教材の入口に当たり、ここではシステムの概要説明、操作方法、キャラクタ紹介、OA、及びコンピュータの基礎知識について解説している。また、キャラクタは当システムの姉妹品である「業種・業態別モデル提案システム」と同一である。

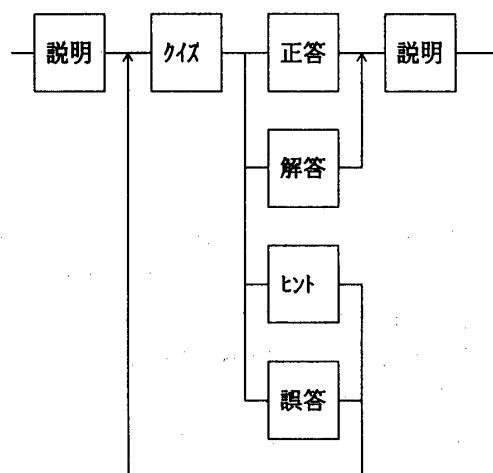
次に、第2章から第8章までは、このCAIシステムの本体である。中でも章タイトルの一部に「導入」と言う語句が使用されている第2章から第6章までは、導入準備から稼働までがストーリー展開されており、コンピュータ導入の中核部分と言える。また第9章から第10章の通信ネットワーク、コンピュータセキュリティ、知的財産権等は最近のコンピュータ導入において、特に留意すべき事項である。

3.8 システムの基本機能

「開講画面」⇒「コースタイトル画面」⇒「章メニュー」⇒「スキップメニュー」⇒「節メニュー」⇒「節目標」⇒「教材本体」⇒「節まとめ」⇒「章まとめ」（最終節のみ）⇒「コーヒープレイク」と画面が遷移する。①章メニューからは、任意の章に分岐できる。②スキップメニューからは、章内の任意の画面タイトルに対応した画面にスキップできる。③節メニューからは、任意の節に分岐できる。④章メニュー以降、任意の画面で終了できる。

3.9 教材本体の機能

教材本体の画面遷移を示す。



4. 今後の課題

4.1 マルチメディアへの対応

CD-ROMあるいは、レーザーディスク等による音声と映像により、学習効果が更に期待できる為、これらへの対応が必要である。

4.2 多機種への拡大

利用者の実情に応じて、マルチメディアを意識した機種や、携帯用の機種でも動作するよう多機種への拡大が必要となる。

5. おわりに

本稿では、「中小企業情報化指導支援システム研究開発計画」の5つのサブシステムの1つである「コンピュータ導入プロセスCAIシステム」の概要について述べた。今後は、利用者の意見要望等を考慮し、一層の充実を図って行きたい。

6. 謝辞

本プロジェクトの開発に当たり、通産省、情報処理振興事業協会の方をはじめ関係者の方々に、数多くのご指導を賜った。心より感謝する次第である。

<参考文献>

- ①高橋 久蔵 著、ユーザからみたオフコン導入（活用の手引）、日刊工業新聞社、1980
- ②清田 進、山下 福夫 共著、これからの事務効率化の進め方、高文堂、1984
- ③片方 善治 著、OA推進のチェックリスト、税務経理協会、1981